

令和4年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

番号	60	学校名	静岡県立池新田高等学校	記載者	教頭 川口知幸
----	----	-----	-------------	-----	---------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	基本的な生活習慣を身につけ、規律ある思いやりあふれた人間を育成する	他者の話をしっかりと聴くことができる生徒 80%以上	A	A	日常の挨拶がしっかりでき学校生活において人の話をしっかりと聴くことができる生徒の割合が増加している。身だしなみを正す割合は非常に高く、生徒の学校生活も安定している。学校を訪問しても元気な挨拶や気持ちの良い会話ができる生徒が年々増加していると地域からも評価いただいている。
		身だしなみを自ら正す生徒 90%以上	A		
		自ら挨拶をする生徒 90%以上	A		
		自他の人権が尊重されていると実感する生徒 90%以上	A		
		健康や安全に関する高い意識を持つ生徒 80%以上	A	A	コロナ禍の中で生徒たちができる限りの努力をしている様子がうかがえる。家庭の協力を必要とする項目が多く、学校から適切な情報発信が必要となる。今後の課題として精神面や肉体型の正しい管理を家庭に頻繁に投げかけ、生活の中に健康であることの必要性を感じる機会を増やしたい。
		朝食摂取率 90%以上	A		
		欠席率 1.5%以下 遅刻率 0.8%以下	B		
		共生・共育から学ぶことが多いと実感する生徒 80%以上	B	A	昨年に比べ読書に対して関心を持つ生徒の割合が増加した。来年度も継続して図書室からの情報発信に取り組んでいただきたい。
		読書感想文を通して心が豊かになったという生徒 60%以上	A		

イ	基礎学力の確実な定着と主体的に学ぶ態度を育成する。	学びの基礎診断等を活用して、基礎学力が向上したと実感する生徒 80%以上	C	A	学校を訪問した際に生徒の授業に取り組む態度は非常に安定しているように感じる。生徒と教員の距離も適切であり、授業に対してクラス全員の生徒が関わっている。観点別評価も徐々に浸透し、教員の授業改善にも繋がっている。学習への取組が向上するため教職員が努力しているのがよくわかる。更に生徒の理解力を高めるためにも観点別評価の研修を深める必要がある。生徒も教員の優しい問いかけに安心感を抱き、日々の学習活動に前向きに取り組んでいることが感じ取れる。
		プロジェクタ等の ICT 機器を活用した授業を行っている教員 90%以上	B		
		観点別評価の実施を通して生徒の学習改善につながる授業改善を行っている教員 80%以上	A		
		授業中に教員が褒めたり励ましてくれたりすると感じる生徒 80%以上	A		
		生徒の到達度に応じた授業を実践している職員 90%以上	B		
		授業に意欲的に取り組む生徒 90%以上	A	A	授業に意欲的に取り組む生徒が増加している。今後の成長が非常に楽しみである。一方で読書量は少なく今後の生徒への啓発が必要となる。スマホの普及に対応できないのは仕方の無い事なのかもしれない。
		OJT チーム職員の授業を参観する職員 90%以上	C		
		年間 5 冊以上本を読んだ生徒 50%以上	A		
		各種説明会やインターンシップ等の進路指導、行事が十分行われていると答える生徒 90%以上	A	A	コロナの影響で外部と連携することが困難になってきているが、教員がひたむきに努力している様子が感じ取られ個々の生徒に対する日頃の指導が充実しているように思う。今後も厳しい制限を受けながら行事を進めていくことを考えると今年度の指導体系を維持し、生徒の進路意識を更に高めたい。
		一人ひとりに適した丁寧な進路指導が行っていると答える生徒 80%以上	A		

		生徒主体でしぶき祭や体育大会などの行事が行われると答える生徒80%以上	A	A	生徒の主体的な活動で創造されている学校行事が多くみられ、コロナ感染症の終息後の行事に対して活発な運営が期待できる。
ウ	社会の一員としての自覚を持ち、自らの進路を切り拓く力を育む。	学習支援ボランティア定員充足率100%	A	A	ボランティアに対する意識が高く、自分たちの居住する地域に貢献しようとする生徒が多くみられる。今後は地域の活性化につながる活動に参加する割合を徐々に増やし、地元の魅力を生徒に体感させたい。
		池高チャレンジ&サポート事業申請数2件以上	B	A	地元企業に目を向け、研究する態度を更に高めることが必要である。 特に、地元の企業の有識者に対して本校への招請事業を多く計画し、地域を巻き込んだ人材育成を長期にわたって計画することが必要である。生徒と地域との結びつきを深める行事をもう一度再考したい。
		地域探究学習を通じて、地元に対する魅力を発見し働くことにやりがいや喜びを感じたことができたと答えた生徒80%以上	A		
エ	学校行事や部活動等を通してたくましい力や豊かな感性を培う。	部活動に積極的に参加する生徒の割合80%以上	A	A	部活動への参加率を向上させ、自己を鍛錬することの大切さを生徒も教員も理解して欲しい。 コロナ禍のため、年間の表彰式の回数を3回しか行えず生徒の顕著な表れを表彰するの機会を失った時があった。
		年5回以上生徒表彰を行う。	B		
		芸術鑑賞教室を通して心が豊かになったという生徒70%以上	A	A	講演内容を精選し、生徒の嗜好に合わせた鑑賞教室を行ったことにより、生徒自身も充実した体験ができた。
		校内の環境美化に努める生徒90%以上	A	A	校内を訪れても常にきれいで美化活動に努めているように感じる。
		相談室が使いやすいと感じる生徒70%以上	A	A	教育相談体制が整っていることは生徒が安心して学校生活を送るための必要条件であると思う。

様式第4号

		支援を必要とする生徒の事例を共有し、チームで支援を行っていると感じる教員 70%以上	A	A	特別支援コーディネーターの呼びかけにより、チームで生徒対応を連携して行うことができ、その生徒に対し教員が共通理解を持つことができ良い取組であると思う。
オ	安全で安心して生活できる校内環境整備を行う。	防災訓練により避難行動を理解し、防災意識も高まっていると答える生徒 80%以上。	A	A	予期せぬ災害に対し、常日頃から備える意識を生徒や教職員が考えることは重要である。地域に戻ってもその気持ちを持ち続けるためにも訓練は頻繁に行うことが大切だと思う。
		地域防災に参加したと答える生徒 70%以上	B		
		いじめが原因となった不登校 0 件	A	A	昨年に比べ、いじめは顕著な例はなかったが、未然に防止するために些細な情報でも見逃さず、常に生徒の言動に着目していきたい。
		先生を信頼する生徒 70%以上	A	A	昨年に比べ、先生を信頼する生徒の割合が増加しており、教職員の日々の努力の跡が窺われる。 1年間を通じて重大な大きな交通事故も発生せず、生徒や教職員は安全安心な学校生活を送っているようである。
		重大な交通事故 0 件	A		
		1 日体験入学、オープンスクール、学校説明会への中学生、保護者の満足度 90%以上	A		
		施設・整備は安全に整備され使いやすく整備されていると答える生徒の 80%以上	A	A	日々の学習活動を充実するために環境整備は大変重要な条件であり、安全性を重視することは当然、学校がやらねばならない大切なことだと思う。

カ	地域と連携する開かれた学校づくりを推進する。	P T A 総会出席率 50%以上	B	B	コロナ禍であったが徐々に P T A 活動自体も許容範囲が広がっていると感じる。次年度以降は以前の活動状況を十分振り返り、どの様にして役員の保護者と教職員が連携と情報発信するかが大切である。
		P T A 活動は活発であると答える保護者・教員 70%以上	B		

様式第 4 号

		地域貢献、地域活動に何らかの形で参加する部活動の割合 100%	B	A	学校 HP による広報活動を中心に本校の地道な地域活動を公表することにより、市域の方々に理解していただくと共に地域活動に参加する割合を。地域に根差した学校として中学生を中心に情報発信することで様々な注目をしてもらえる学校になってほしい。 中学生が注目する広報活動を模索し、その内容を保護者や家庭、中学校が理解し、分かりやすく数多く提供してみたらどうだろう。
		進学後も含め、地域に戻ってきたいと思う生徒 80%以上	B		
		中学校時代、本校の広報活動が学校選択の参考となったと答える新入生 80%以上	A		
		監査指摘事項 0 件	A	A	今後も継続していきたい。
		職員室施錠時間 21 時以前	A	A	職員の勤務状況が徐々に改善されていることの証であると考えます。今後も継続したい。
		県実施調査のストレス値 (学校全体) が県平均を下回る。	A	A	教職員の安定した勤務状況は生徒に対する学習活動に直結する。今後もストレスのたまらない環境づくりを進めて欲しい。